

音更町総合計画推進委員会会議結果（要旨）

会議名	第3回音更町総合計画推進委員会
開催日時	平成29年1月25日（水） 午後4時から午後6時
開催場所	音更町役場庁舎4階401・402会議室
委員出席者	津久井委員長、林委員長職務代理、加藤委員、河田委員、小林委員、杉原委員、高橋委員、土田委員、畠委員、森下委員、吉川委員
町側出席者	渡辺企画課長、西岡企画調整係長、高田企画調整係主任、松蔭企画調整係主事
傍聴者	北海道十勝総合振興局地域創生部地域政策課主査（地域創生） 山田 氏
議題・諮問内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員長あいさつ 3 議件 <ol style="list-style-type: none"> (1) 重点施策推進管理評価調書、総合戦略推進管理評価調書の検証について 4 その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 次回のスケジュールについて
会議資料	<p>※第1回目で配布した資料を使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5期総合計画推進管理評価調書 ・音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進管理評価調書 ・(資料1) 音更町総合計画推進委員会について ・(資料2) 第5期総合計画推進管理評価調書について ・(資料3) 音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進管理評価調書について ・(冊子) 第5期音更町総合計画、音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略、まちづくり町民アンケート結果報告書
会議結果	下記のとおり
出された主な意見等	<p>■前回の質問に対する回答</p> <p>委員：昨年の台風時、休校の判断はどうされたのか。（参考：前回の質問）</p> <p>事務局：臨時休校と判断した学校は、木野東小学校、緑南中学校、下土幌小学校の3校。十勝川の水位が一定値を超えたことから2時40分に避難勧告を行い、避難勧告地域内にある木野東小学校、相当数の避難者数が予想される宝来・ひびき野地区の避難所に指定されている緑南中学校を臨時休校とした。また、緑南中学校への避難者が多く、収容しきれない可能性があったことから、5時30分に下土幌小学校を避難所として臨時開設するとともに臨時休校とした。</p> <p>短縮授業と判断した学校は、音更小学校、柳町小学校、東土狩小学校の3校。音更川の水位が一定値を超えたことから7時20分に避難勧告を行い、避難勧告地域内に学校がある音更小学校と柳</p>

町小学校は臨時休校が該当していたが、避難勧告の時間と登校時間が重なったことで既に登校している生徒がいたために短縮授業とした。なお、避難勧告は、川の水位が一定値を超えた時点で行うものであることから、登校時間と重ならないように避難勧告を行うことは不可能である。東士狩小学校について、近くを流れている然別川は水位を測るものがないことから、安全性を確保するために学校の判断で短縮授業とした。

これらの学校以外については、避難勧告地域内に学校がなかったことや、避難者が体育館に収まり教室が使用できたことなどから通常授業を行った。

委員：判断に納得はするが、基準値を超えていないとはいえ、水位がかなり上がっている川の橋をスクールバスで通ることに、子ども達が不安を感じていたことを理解してもらいたい。

委員長：スクールバスの運転手に対して、緊急的にリアルタイムで指示できるようになっているか。

事務局：スクールバスに無線はつながっているので指示はできる。

■重点施策【教育環境の整備】

委員：学校施設のバリアフリー化は完了しているのか。また、バリアフリーの関係は、総合計画に記載があるか。

事務局：施設を建設するときに、バリアフリー仕様になっているため、バリアフリー化はできている。また、地域福祉を推進する体制・環境づくりという施策で、ユニバーサルデザインについて記載がある。

■重点施策【義務教育内容の充実】

■総合戦略【出産と子育てを支援する環境づくり】

委員：子どもに目配りが行き届くような人材配置が必要と考えている。現在、少人数学級に向けて独自に5人の先生を採用しているが、毎年、少人数学級に対応できるような人員の配置を行うのか。

事務局：単年度ではなく、毎年行う。

委員：小学校の外国語活動に外部から英語講師を派遣する事業について、1クラスあたりの講師派遣時間の目標値が15時間とあるが、1年間で15時間なのか。

事務局：1年間で15時間。少しでも英語に触れる機会を設けようと、5・6年生を対象に実施している。小学校の先生は英語の免許を有していないことから、外部から講師を派遣している。

■重点施策【高校教育、高等教育の充実】【推進体制、人材の確保】【施設の活用、連携】【図書館の充実】【利用しやすいスポーツ活動の場づくり】【芸術文化活動の促進】

委員：公民館の利用者数が減少しているが、目標達成に向けて利用者数を増加させる対策は行っているか。

事務局：呼びかけなどは行っていると思うが、これといった対策は行っていない。目標達成につながるような対策を考えたい。

委員：公民館の利用者数の減少が、町内会活動の減少と関係しているのではないかと。そうであれば、行政側が改善するものではないと思う。

委員長：公民館の維持管理のために費用が発生するため、施設を更新するには、行政側の取組や地域の積極的な活用などが求められる。

委員：老朽化にともなう修繕や、耐用年数の経過による統廃合など、長期的な視点で公共施設をどう扱うかを考える必要があるのでは。

委員：図書館の利用について、町民1人あたりの貸出冊数が目標として設定されているが、分母は、来館者数もしくは人口のどちらを使用しているのか。

事務局：人口を使用している。

委員：図書館について、インターネットで蔵書の把握や、貸出予約ができたり、図書館以外の場所に返却窓口があり、図書館に行かなくても本の返却ができる自治体がある。図書館を利用しやすい環境に整える取組ができればいいと思う。例えば、木野支所に返却ボックスを設置すれば便利になると思う。

委員：小中学生に、音更町の誇れる文化や名物などをきちんと教育すること、また、その評価が必要ではないか。地元を誇れることができれば、人口流出に歯止めをかけられるかもしれない。

事務局：重点政策ではないが、社会教育として、郷土の歴史を学ぶために、生涯学習センターの利活用や豊かな郷土を育むための取組という政策がある。また、食育教育として、給食に地元の食材を使用しているが、アンケートで、給食の評価が高いという結果が出ている。今後も、継続して教育を進めていきたい。

委員長：大人は教材を共有するなどして、子どもにどのような郷土学習を行っているのかを理解する必要があると思う。

委員：地元の企業が職場体験として小中学生を受け入れることも郷土学習の1つの方法で、将来この企業で働きたいと感じてもらえることができれば、音更町に残る人も増えてくる。

**■重点施策【幼児を対象とした子育て支援】【青少年育成の推進体制、環境づくり】
【学習機会の拡充、活動の支援】【母子保健の充実】【子育て支援拠点の充実】
【保育サービスの充実】【早期療育、発達支援】
【ひとり親家庭等の自立の促進と経済負担の軽減】
【男女がともにいきいきと働ける環境づくり】**

■総合戦略【出産と子育てを支援する環境づくり】

委員：授乳室の利用件数はどれくらいか。

事務局：把握している利用件数は、それぞれの授乳室で1ヶ月あたり3～4件くらい。利用者は、名簿に名前を記入する仕組みになっており、その名簿を基に件数を把握している。利用しても名簿に名前を記入しない人があるので、把握できていない件数がある。

委員：授乳室を設置したのに利用者が少ないのは残念。情報発信が必要。

委員：利用者が少ないのであれば、撤去することも考えないといけない。授乳室があることを否定はしないが。

事務局：色々な意見を聞いたうえで設置したことから、情報発信などを行い、利用促進に努めていきたい。

委員：利用者が少ない原因は、授乳室を設置している施設に行く用事がないことだと思う。公共施設だけでなく、民間施設も含めて人が訪れやすい施設を把握し、授乳室を設置すべき。

事務局：今年度から、民間施設に授乳室を設置する企業に対して補助を行っている。

委員：学童保育は何年生までを対象としているのか。

事務局：現在、民間に委託している柳町、木野東、下士幌、緑陽台の4園については、28年度に小学校4年生までを対象とした。また、29年度は5年生まで、30年度は6年生まで対象を拡大する予定。現在、町で直営している鈴蘭、下音更、ひまわりの家、駒場の4園については、3年生までを対象としている。また、この4園は29年度に民間委託する予定で、委託後は、29年度に4年生まで、30年度に5年生まで、31年度に6年生まで対象を拡大する予定。現在、町で直営してい

る4園については、民間委託している4園と比べて、1年遅れて対象が拡大されるイメージ。

委員：発達支援センターについて、支援が必要な子どもが増加しているが、受入人数の関係で町外の施設を利用せざるを得ないところがある。町内の施設を2か所から増やす予定はあるか。

事務局：今のところ施設を増やす予定はないが、受入人数を増やしてほしいというニーズがあるということなので検討する。

委員：子育て世帯向け賃貸住宅の家賃補助について、児童数が減少している小学校付近に家賃補助を受けられる戸建て住宅があれば、小学校周りに人が集まるとともに、空き家対策につながるのではないか。

委員：幕別町は子どもの医療費の支援が手厚いこと、札内地区に子育て世帯が住居を建設する場合の補助があるなどの理由から、若い人に人気があると聞いたが音更町はどうか。

事務局：音更町が他の自治体と比較して劣っているとは思わない。思い切った政策をするには大きな決断が必要となり、また、他自治体が実施したから音更町でもすべて実施できるかという、難しいものもある。

委員長：人口増加のための施策なので、他自治体と競争してまで実施するべきなのかどうかは難しいところだが、こういうニーズがあることは受け止めていただきたい。また、新規住民に対する政策に偏りすぎると、既存の住民から不満が出てくるので、総合的に判断する必要がある。最も大事なことは、働く場所を創出して人口を増やしていくことだと思う。

■重点施策【コミュニティバスの利便性の向上】【農村部の利便性の向上】【在宅・施設サービスの充実】【地域生活の支援】

■総合戦略【老後も不安が生じない生活環境づくり】

委員：コミュニティバスの乗車率はどれくらいか。

事務局：時間帯や時期によって変動するが、1日平均80から90人くらい。また、6路線あるので、1路線あたり13から15人くらい。この人数が多いか少ないかの判断は難しいが、現在、公共交通の計画を策定している中で、利便性の向上が必要という意見が聞かれる。民間の路線バスとの接続を良くするなど、コミュニティバスの路線全体を見直す必要があると感じている。

委員：コミュニティバスのバス停を十勝川温泉に設置して欲しいという声がある。

事務局：12月にガーデンスパ十勝川温泉がオープンしたこともあり、こういう意見が増えていることは感じているが、低運賃のコミュニティバスを十勝川温泉に走らせた場合、既存のバス路線である十勝川温泉線の利用者が減少するという問題がある。

委員：ウーバー（専用アプリを利用してハイヤーを予約・利用できるスマートフォン向けのサービスのこと）を活用するのはどうか。スマートフォンを所有していない高齢者などは、役場に手配してもらい利用するイメージ。

委員長：公共交通の計画は進んでいるようだが、困っている人をいかに救えるかという視点が大切だと思う。また、公共施設や民間施設とバスが連携することで、利便性の相乗効果が生まれる。さらに、実施済みかもしれないが、お試し乗車券を配布するなど、バスを体験するきっかけづくりをしてほしい。

委員：定時にバスが停留所に到着しないとき、冬の時期だと寒いなかバスの到着を待たないといけませんが、寒さ対策として、風除けなどを設置できないか。

委員長：定時に到着するのは難しいので、バスの位置情報がチェックできる仕組みはあるのか。

事務局：バスに端末を設置し、GPSでバスの位置をリアルタイムで表示する取組はバス会社で行っている。ただし、スマートフォンにアプリをダウンロードする必要があり、また、不具合も多いと聞い

ている。

委員：高齢者福祉の部門で認知症の情報を把握している場合、必要な部署に情報提供するのはどうか。例えば、認知症の人は、分別を間違ふなどゴミを上手く出せないため、業者がゴミを回収しないことがあり、それが続くと家がゴミ屋敷になってしまう。ゴミ回収業者に認知症の情報が提供されれば、対策をとることができるのではないか。

事務局：要支援者については民生委員の協力で名簿があり、災害時に地元の町内会へ名簿を情報提供することはある。認知症の関係については、個人情報の兼ね合いなど課題もあるが、地域包括ケアシステムで連携を行っている。

委員：民生委員と連携して、支援が必要な人に対してボランティアがゴミ出しの手伝いに行く取組あればいいのでは。

委員長：ゴミの排出状況から何か危惧されることを察知し、行政が確認に行くなど、個人情報を提供しない形での対策ができるかもしれない。また、個人情報の取扱は難しいが、連携の可能性や情報の使い方などを検討していただきたい。

※事務局より、次回会議を2月3日（金）に開催することを説明。